

リチウム中毒

英語名 : Lithium toxicity

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

リチウム中毒は、炭酸リチウムを内服中、あるいは過量
に服用した時に起こることがあり、これを防ぐためには
定期的な血中濃度測定が重要です。炭酸リチウムを服用
していて以下のような症状が出た場合は、自己判断で中
止したり放置したりせずに、医師、薬剤師に連絡し、す
みやかに受診してください。

「手が震える」、「意識がぼんやりする」、「眠くなる」、「めまいがする」、「言葉が出にくくなる」、「吐き気がする」、「下痢をする」、「食欲がなくなる」、「口が渇く」、「お腹が痛くなる」

1. リチウム中毒とは

リチウム中毒とは、リチウムという薬が体に取り込まれたことによって身体や精神に何かしらの毒性や有害な症状を及ぼしている状態をさします。

炭酸リチウムは、主に双極性感情障害（躁うつ病）の治療に用いられますが、有効血中濃度と中毒域が隣接しており¹⁾、その濃度を超えた場合にリチウム中毒になる可能性があります。しかし、低い濃度でも中毒症状が出る場合や、逆に高い濃度でも症状が出ない場合もあるため、中毒量は個人や状態によっても異なります。リチウム中毒になると、消化器症状（吐き気や嘔吐、下痢、お腹が痛い、食欲がなくなるなど）、神経・精神症状（手が震える、意識がぼんやりする、眠くなる、めまいがする、言葉が出にくいなど）や循環器症状（脈が遅くなる、脈が不規則になるなど）などの症状が見られることがあります。重症化すると、昏睡（意識がなくなり、痛みなどの刺激に反応しなくなる）や腎不全（腎臓の機能が低下する）などの重篤な合併症を来し、生命の危険につながったり後遺症を残したりする可能性があります。そのため、炭酸リチウムを使用するにあたりいくつか注意が必要です。

まずは、定期的な採血（用量が変わらない時は2~3か月に1回をめぐに行うことが推奨されています）により血中リチウム濃度測定を行い有効濃度に入っていることを確認する必要があります。次に、腎機能が低下している時、食事・水分の摂取不足に伴う脱水や非ステロイド性消炎鎮痛剤（ロキソプロフェンナトリウム水和物など）、ACE阻害薬（エナラプリルマレイン酸塩など）、アンジオテンシン II 受容体拮抗剤（ロサルタンカリウムなど）などの降圧薬や利尿剤（チアジド系利尿剤やループ利尿剤など）の内服はリチウム濃度を上昇させ中毒を引き起こしやすくするので注意が必要です²⁾。血中濃度が有効濃

度を超えている場合は、早めに主治医を受診し、リチウムの減量・休薬を検討しましょう。

2. 早期発見と早期対応のポイント

「手が震える」、「意識がぼんやりする」、「眠くなる」、「めまいがする」、「言葉が出にくくなる」（これらが神経や精神の症状です）、「吐き気がする」、「下痢をする」、「食欲がなくなる」、「口が渇く」、「お腹が痛くなる」（これらが胃腸の症状です）などが特に複数見られた場合には、ただちに医師や薬剤師に連絡してください。

症状が現れる時期としては2つあります。1つ目は急性（急性-慢性）リチウム中毒と言って、多くはすでに炭酸リチウムを服用している患者さんが、自分を傷つけたり、自殺しようとしたりして炭酸リチウムを過量服薬してしまったとき、誤って炭酸リチウムを多量に服用してしまったとき、嘔吐、下痢、発熱などによる脱水となったときが考えられます。2つ目は慢性リチウム中毒と言って、炭酸リチウムを常用している患者さんで、用量を増やした、腎臓の機能が弱ってきた、炭酸リチウムと飲み合わせの悪い薬（表1）を飲んだときが考えられます。

医師の診察や血液検査などを受けてリチウム中毒と診断されると、炭酸リチウム服用を中止し、点滴をするなどの治療をします。症状が重いときには、入院や血液透析が必要になる場合があります。



・手のしびれ



・吐き気・下痢



・意識障害



表 1 リチウムと飲み合わせの悪い主な薬（文献 3 より作成）

どのような薬か	薬の種類の特用語	薬の名前 一般名（商品名）
痛み止め	非ステロイド性消炎鎮痛薬 (NSAIDs)	ロキソプロフェンナトリウム水和物（ロキソニン）、アスピリン（バファリン）、セレコキシブ（セレコックス）、ジクロフェナクナトリウム（ボルタレン）、ナプロキセン（ナイキサン）など
尿の量を増やして、体のむくみをとる薬	利尿剤（サイアザイド系、ループ利尿薬、利尿作用のあるサプリメントなど）	トリクロルメチアジド（フルイトラ）、ヒドロクロチアジド（ダイクロトライド）、インダパミド（ナトリックス）、トリパミド（ノルモナール）、メフルシド（バイカロン）など フロセミド（ラシックス）、トラセミド（ルブラック）、ブメタニド（ルネトロン）、アゾセミド（ダイアート）など

血圧を下げる、心臓と腎臓を守る薬	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（ARB） アンジオテンシン変換酵素（ACE）阻害薬Ⅱ	ロサルタンカリウム（コザール）、カンデサルタン シレキセチル（アタカンド）、エプロサルタン（テベテン）、イルベサルタン（アバプロ）、テルミサルタン（ミカルディス）、バルサルタン（ディオバン）など テモカプリル塩酸塩（エースコール）、イミダプリル塩酸塩（タナトリル）、エナラプリルマレイン酸塩（レニベース）、ペリンドプリルエルブミン（コバシル）など
抗菌薬	抗菌薬、抗寄生虫薬の1つ	メトロニダゾール（フラジール）
腎臓に悪い薬	その他の腎機能障害を起こす薬剤	医師や薬剤師と相談してください

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医療用医薬品 情報検索」から確認することができます。

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

※ 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病等の健康被害について、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金などの救済給付が行われる医薬品副作用被害救済制度があります。

（お問い合わせ先）

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

電話：0120-149-931（フリーダイヤル）[月～金] 9時～17時（祝日・年末年始を除く）